

令和5年度第2回静岡市立登呂博物館協議会

- 1 日時 令和6年2月15日(木) 午前10時00分から午前12時00分まで
- 2 場所 静岡市立登呂博物館 1階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)
堀切 正人会長、池田 水穂子委員、木村 貴子委員、木山 克彦委員、鈴木 杏佳委員、田宮 縁委員、野田 修委員、藤田 友子委員、前田 晃宏委員、藁科 彰良委員(全9名)
(事務局)
高田登呂博物館長、梶山副主幹、田中主査、清水主任主事
- 4 傍聴者 1人
- 5 議事記録 (1) 令和5年度の事業報告
(2) 令和6年度の事業予定
(3) 関連報告
(4) 議題
「登呂遺跡の持続可能な活用にむけた人材・団体の育成や連携について」
- 6 議事内容

(1) 報告に対する質疑

(堀切会長)

ここまでの内容で質問やご意見がある方はいらっしゃいますか。非常に盛り沢山の多彩な活動がされていらっしゃいますので、何か質問やご意見がありましたらお願いします。

(田宮委員)

非常に多くのイベント、そして多くの参加者がいらっしゃるということで私自身驚いたところです。すごい活動をされているのだなと思いました。ありがとうございます。この参加者はリピーターが多いのでしょうか。それとも、新しい方々が多いのでしょうか。

(事務局)

入場者数等の傾向は、今日委員の皆様にご覧いただきました館報の前のほうのページに入館者、来場者の傾向等がありますが、割と多いのは小学6年生の社会科見学の学校団体や学校行事の方たちが多いので、そうした方々が4割から5割を占めるような状況でして、あの方たちが県内外のファミリー層がありますが、中には稲作の体験等がありまして、例えば、春に田植えをしたものを秋にまた収穫に来るといようなリピーターの方もいらっしゃるような状況です。

(田宮委員)

ありがとうございます。イベントに参加される方々がリピーターなのかどうかということを知りたいと思いました。不勉強で申し訳ないのですが、今ずっとお話を聞いていてわかったことは、一つはすごくアカデミックな文脈での取り組みがありますよね。もう一つは、一般向けの体験などがあるじゃないですか。そのところで、体験のものが新しい人たちが入っているのか。それとも、何回も

繰り返し好きな人たちが来ているのかということころは大きいと思って、おそらく館としてはそのところをもっと広げていきたい、となるとそこはもう一步繋げるものが必要なのかなと思っていたので、教えていただけるとありがたいなと思います。

(事務局)

私も今年、登呂博物館に着任してから色々なイベントに関わらせていただいたのですが、やはり単発で来ていただけるというよりは、例えば、田植えの話が出ましたけれども、田植えがあったときに次のイベントの予定があれば、チラシを田植えの方にお配りして次も来てもらうとか、年間のスケジュールをラミネートで作って田植えのときにご説明して、実は登呂博物館は年間を通してこんなイベントをやっているんですよという、次の秋の収穫のときに「この間のチラシを持ってきました」といったお声も聞けるようになりました。また、今年からアンケートも見直しまして、このイベントや登呂博物館は何回来ていますかと、少し定数のほうでも取るようにしまして、リピーターが多いのか、初めての方なのか、それによって私たちの対応もご指摘いただいた通り変わってきますので、親子連れがどうしてもイベントは多いですけども、おっしゃっていただいたように、少しでも登呂博物館に来ていただけるように Twitter での発信や、来ていただいた方には QR コードを見せてここで常にイベントを発信していますのでとって、SNS を登録していただけるように工夫をしていますが、ぜひこういったこともしてみたらという皆さんのご意見があれば頂戴いただけたらと思います。

(田宮委員)

やはりどちらかということ、体験のところどうしても親子連れとかお子さん向けのものが多いと思うんですけど、先ほど藤田委員のお話にあった通り、例えば、小学生のときに来ていた思い出、私も3、4年生のときに初めて登呂公園に来たんですね。そのときの思い出とかそういったものをたくさん持っていらっしゃる方がいっぱいいると思うんです。私自身は本当にただあるだけではなくて、空間が場となることが必要で、私、藤田委員のお話にすごく感銘を受けました。弥生時代と今を結ぶ何かがあるともっと層が広がるし、層が厚くなり、それで発信力がある人たちがどれだけこの館に来てもらえるのか、公園に来てもらえるのかというのを重視した形でのものがこれから必要なのかなと思ったところです。私自身も朝9時ちょっと過ぎに来たときに、イベントじゃないときに来るとこんなに素敵な私の登呂遺跡があるんですよ、私の登呂遺跡、私の登呂博物館って思える人をどれだけ増やすかということが大切なのではないかな。その仕掛けづくりをしていけるといいかなと感じたところです。私の感想になってしまいましたが、お話を伺って多くのイベントをやっていて、多くの人たちが来ている。でも、次の課題はなんだろうか。まず自分事とここがなる、今の生活とどう結び付けていくかということなのかなと思いました。

(堀切会長)

学校の団体が多いということですので、子どもたちの原体験としての意識付けみたいなのをたぶんとされていらっしゃるのだらうと思うんですね。田宮委員がおっしゃったように、それをどう次に繋げていくかということがまた課題なのかなと思います。ありがとうございました。諸々ご意見あると思いますが、また後ほどのテーマでも関わってくると思いますので、次に進めさせていただきます。

(事務局)

補足よろしいですか。来館者アンケートを書きやすいように改善した面もありまして、アンケート

集計のお知らせをさせていただきたいのですが、来館の回数につきましては、初めての方が70%、来たことがある方が30%です。おおよそですが。これは1月1か月の集計ですが、累計もっております。ただ、アンケートを書いていただくのは初めて来た方が書く傾向があると思いますので、これは一例と言いますか、参考までにということです。お住まいも県外から280人ほどの内160人ほど静岡県外から来ております。あと、満足度は非常に100%に近い形で書いていまして、参考までに登呂遺跡とほかに訪れる場所がありますかという質問を取って入れたのですが、一番多いのは駿府城公園、次が久能山東照宮、次が隣の芹沢銈介美術館、三保の松原、次に歴史博物館、ドラマ館、その他、こういう形で登呂遺跡のほかにもいらっしゃる方は静岡市で全体としては参考になるかと思えます。ちなみに、来館回数も複数回ということで2回来た方が一番多くて、次に3回、あと100回くらい来た方もいらっしゃいます。あと、お住まいも全国、北海道から徳島まで様々ですが、海外からもやはりたくさんいらっしゃって、先月はマレーシア、香港、アメリカ、スウェーデンの方。音声ガイドのインバウンド対応の一つとして4か国語、担当が整備しまして、その貸し出しも図書コーナーで行っております。そちらは英語等貸し出しも出ております。あと、様々な声をいただいています。小学生以来40数年ぶりの訪問ということで東京都の男性からいただいたり、9才以下の女の子から「昔のことをもっと知りたくなりました」とか、「本物は素晴らしい」とか、「教科書でしか見たことがなかったものを実際に見られて嬉しい」これは20代の女性です。あとは、「家族を連れてきたい」これはアメリカの方です。「素晴らしい展示をありがとうございます」といただいています。「もっと入館料を取ってもいいと思う展示でした。面白かったです。」浜松市から20代女性。もっとたくさん紹介したいのですが、子どものころから行って、大人になって来る方もたくさんいらっしゃるし、ご家族でいらっしゃって子どもたちが何か持ってお帰りになってというのは、なかなか数字に表れないですが、学校団体も多いので、これをいかに先ほどお話ししたように繋げていくか、広げていくかというのが課題だと思います。

(堀切会長)

次に令和6年度の事業計画について事務局から説明をお願いします。

① 令和6年度事業計画に対する質疑

(堀切会長)

ここまでの内容で皆様からご意見ご質問等ありましたらお願いします。

(堀切会長)

今年度の計画ですが、主に企画展のお話が多かったと思うんですけども、体験活動や教育普及活動、あるいは何かそれ以外のことで、新しい取り組みなどがありましたらお知らせいただけますでしょうか。

(事務局)

取り組みの中では、後でもご紹介させていただきますが、博物館ボランティアの活動の拡充に力を入れまして、それをイベントや体験学習に活かしていく取り組みも少しずつ進めていきたいと考えております。その中でも教育面で登呂遺跡を活用というところで、野田先生の南部小学校と来年度教材に登呂遺跡、登呂博物館を活かしていただく、地域学習や歴史の学習の中で活かしていただけるような、学習の拡充の取り組みですとか、先ほど実験考古学ということで申し上げましたが、遺跡の中、

各所で実験等を通して学術的なデータとかを蓄積しまして、そうしたものを魅力とか体験とか景観とか、登呂遺跡の特徴をより尖らせるような取り組みもしていきたいと、そうした学術から活用への転換、変換をどのようにしていけばいいかというところを検討していきたいと考えております。

(堀切会長)

ありがとうございます。皆さんから何かございますか。

(前田委員)

今の梶山さんのお話の追加ですけど、生涯学習センターで来年度も主に親子とか子どもを対象とした市民向け講座の中で田下駄づくり、その体験を計画しております。もう予算に入れちゃいましたので、よろしくをお願いします。

(堀切会長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

(田宮委員)

今の新しい取り組みのこともあったんですけど、すごくプリミティブな質問で申し訳ないんですけど、新しい取り組みがあるということは、逆にいうとスクラップされていくものもあると考えていいですか。というのは、取り組みをたくさんすると、逆にいうとそこに注力するのが薄くなってしまいうので、館内の人的リソースも限られていると思いますので、そのところがどんなのかなって。新しい取り組みプラス、そしたらスクラップするものがあるのかどうかということを教えてください。すごく質的なものとかが重要になってくると思いますので、お願いします。

(事務局)

人の心配をしていただきありがとうございます。おっしゃる通りでどんどんやるが増えると、本来やるべき研究や企画展の関連イベントや普段の運営に支障をきたします。ただ、先ほど紹介させていただいた登呂フェスを 80 周年記念でやったのですが、非常に好評なので今後も続けたいのですが、夏の 2 日間で結構体力的に厳しい環境でありましたので、来年は 1 日だけで開催予定です。先程、説明にはなかったのですが、登呂フェスにつきましては、ちょうど大学生が日本全国から博物館実習で毎年 10 名ほど受け入れをしております。その方たちにも実習の一環として参加していただいて、市民の方、来場された方たちとのコミュニケーションを取ってもらったり受付をしてもらったり、ということでプラスアルファの学びの場としても使っていただければということで開催しております。あと、こちらのスケジュールの年表に書いてあるのが、大体毎年同じようなイベントを開催しておりますので、この辺も各自、主担当を決めまして、副担当や行動する方たちがいかに効率的であり負担が増えないような職場環境も考えつつ、みんなで協力して意見を出し合いながら企画を決めておりますので、自然相手に非常に厳しいのは、ほかの博物館とは違うところで消えない課題ではございますが、ただ、毎年同じことをやってもちょっとどうかなと思っておりますので、なるべくブラッシュアップして韓国の関係につきましてもスタートラインに立ったところですので、これからどう広げていくかをこちらでも考えていきますが、皆様のご意見をいただければありがたいと思います。

(堀切会長)

たしかにあれもこれもということになりがちなんですけれども、現場のマンパワーと質の維持も取り組んでいただければと思います。

では、その対策というわけではないでしょうけれども、現場だけでは手が回らない部分ももちろん多いと思います。そのためにこそ人材の育成とか、色々な施設、組織との連携がますます必要になっていくということで、もうすでに先ほど委員の皆様からも色々なお話がありましたけれども、連携ということで進んでいると思うんですけれども、そういうことで今回の議題として、登呂遺跡の持続可能な活用に向けた人材・団体の育成や連携について議論できればと思います。まずは、事務局から説明をいただけますか。

③議題に対する意見

(堀切会長)

色々な観点から議論ができる大きなテーマじゃないかと思うんですけれども、特に大きな内容としては、ボランティアのことと関連団体連携事業と二つありましたけれども、どちらでも両方でも結構ですので、ご意見がありましたらご自由にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

(田宮委員)

また確認になるんですけれども、あるべき姿の登呂遺跡の歴史、価値、魅力が多くの人に伝わっているのがあるべき姿だと思うんですけれども、その価値が伝わることで、要は活用・保存なので、保存に対しての必要性とかそういったものをみんなが認識するということまで持っていくのが大切ということですよ。伝わっているだけじゃなくて、さらにそのところで保存することが市民の総意になっていくところまで目指していきたいんですよ。

(事務局)

おっしゃる通りやはり遺跡もそうですし、私どもで収蔵している資料もとても財政的にもかかるところではありますので、やはりそうしたところに理解であったり、今、文化財同士の中でもそうした活用を通してそうした保存に、例えば資金とか人材を充てられるような好循環を目指しておりますので、そうしたところでもやはり活用と保存がバランスよく、保存にも結び付くような活動が求められているところでございます。

(池田委員)

私は、三期ほど静岡市の市民活動の促進協議会の委員を務めさせていただいて、そちらでも議題に挙がっていたんですけれども、やはり今、市民活動のほうもかなり苦しい状況になってきています。今回、協働がテーマになってきたときに、先ほどから田宮委員がおっしゃっているんですけど、かなり色々なことを引き算して絞り込んでいかないとやはり効率も上がっていきませんし、より大変になっていくだけという中で、今、協働で考えられている中で運営者が問題になってくると思うんですね。例えば、私たちのように場を借りるようなものというときに、そういった方たちの属性をちゃんと把握する必要があると思っていて、もちろん教育機関もありますし、あと市民活動であったり、それ以外にもイベントであるような活用にもっと傾倒しているような方たちということで、その辺りをちゃんと把握しておく必要と、もう一つは利用者の属性ですね。どういったターゲットを呼んでいきたいのかということもすごく重要で、この施設、本当にとっても良い施設で、公園としての利用価値も非常に実は高いと思っています。その中でやはり利用者の属性を絞っていかないと、

ただ単に全体的に協働というのをやっていくと、例えば、静岡市のパイロット事業というのがあるんですよ。市民活動を促進するために年間 250 万くらいの予算をとって手上げでやりたいことに予算を付けてくれるんですよ。基本は社会課題ということですけど、あまりにも広すぎて利用者もいないというので非常にもったいない。やっても市の求めている内容とやはり違うというのがすごく出てきてしまっているんで、やはりそういったところを含めると引き算をして、集中してターゲットを絞ったアプローチを軸を通していかないといけないのかなと思っています。

(堀切会長)

今の意見について事務局から何かございますか。

(事務局)

失礼な言い方もしれないですけど、私どものところもやはり連携を来るものは拒まずという形で今はやっておりましたので、やはりそうしたところの連携、マッチングというところになるのでしょうか。これからしっかり私どものほうでそこをマッチング、しっかり選ばれるような基準が必要になるのかなと、今、委員の意見を伺いまして感じたところでございます。

(田宮委員)

難しいところがあるかなと思って、実は登呂まつりに秋に参加させていただいて思ったのは、やはりここは地元の人たちの憩いの場でもあり、集まる場でもあると思うんですよ。運営者の属性だけではやはり難しい部分もあって、そういったところも考慮しなければならないんだろうなと。すごく複雑な印象があってすごくアカデミックな文脈、入り込めない文脈でのイベントもあるし、学会発表のような感じのものもあるし、あともう一つは、学校キャンプにどのような形でコミットしていくかというのは非常に重要なポイントだと思っているんです。あとは、様々な提案があるものもあるし、あとやはり地元の人たちの活動をすごく大切にしなければならないと思っていて、登呂遺跡が現在に繋がっている。ここに住んでいる人たちはそれなりに価値があるから住んでいるというところを、やはりそこは押さえておかないとならない気がしました。本当にターゲットの属性は難しいなと思っていて、この二つの方向があるからアカデミックなものも保存と活用なので、その活用をどうしていくかというのは、やはりとてもそんなに簡単に結論が出ることではないし、みんなの登呂遺跡なので、その辺りは非常に時間をかけて考えていってもらえるといいかなと思いました。

(堀切会長)

また連携する団体を探すということかなと思うんですけど、たぶん学校教育はこれまでも強い連携の下で進めてらっしゃると思いますし、社会教育も委員の文化振興財団さんと連携を進めてらっしゃるということですので、教育関係との連携はこれまでの実績もあるし、これからもやりやすいんじゃないかなと思います。期待したいのは、むしろそれ以外の分野の団体との連携、例えば観光であるとか、SDGs でもいいですし、国際交流でも何でもいいと思うんですけども、それ以外の学校教育畑以外の団体との連携ができればまた新しい展望が、可能性が広がるのかなと思います。企業でも良いし、色々なところがあると思うんですけども。ただ、その連携先をどう探すのかというところの手立ては何かお考えはありますか。とにかく待っていて来るのを待つのも一つの手だとは思いますが、むしろこちら側から積極的にアプローチをかけると考えて、何か手立ては考えてらっしゃいますか。

(事務局)

令和2年に補助金で、やはりそのインバウンド等の環境を整えていくことができるような観光資源としての活用をやるということで、いわゆる商品開発というのに一年、文化庁の補助金を通して取り組んできたところですけども、その中で私ども登呂遺跡の売りは稲作、米作りになりますので、それを通して何か商品開発できないかということで考えてきたところですが、やはり来訪者のニーズや観光的な専門分野の方たちのアドバイスが非常に大事になってくるなと感じておりました、そうしたノウハウを持った方たちやそうした人たちとの連携、あとは来訪者目線の意見をくださる方の連携は、観光というところで言いますと非常に大事であり、そうした人たちとの連携が大事になってくるかな、必要となってくるかなというのは感じているところでございます。

(田宮委員)

観光については、先ほど登呂博物館に来場される方は駿府城とか久能山に行かれる、やはり歴史が好きな方が多いんだろうなと思うんですね。一方でそれ以外の人も開拓したいわけですよ。そういった視点で考えていくと、本当に食とかそういったものがとてもキーになってくるのではないかなと。城内中学校の生徒さんたちの提案とかそういったものを活かしたような取り組みもありますので、そういったものをすごく評価できるんじゃないかなと思います。一方、会長のほうで教育関係という話が出ましたけれども、一定数社会科見学等で活用されているとは思いますが、学校教育も変わって来ているので、その辺りというのは今までと同じ社会科見学ではもう駄目だと思うんですね。もう少しそのところも学校との連携を図りながら、そこら辺をどういうふうにブラッシュアップしていったらいいのかということについてやはり検討していくことが必要になっているんじゃないかなと思いました。本当に価値のある6年生の歴史で出てくるところではあるんだけど、でも教育が変わってきているから今までと同じではない、ちゃんとそれができている、施設として発信をしていくことも重要じゃないかな。やはり市民の理解を得るのはその教育というところにかに、だからお子さんたちのイベントとかもいっぱいやってらっしゃるんですね、恐らく。そのところにちゃんと切り込んでいくことが重要じゃないかなと私自身は思っています。私自身の会長との相違はないと思うんですけども、そんなふうに私自身の専門分野から考えました。

(堀切会長)

学校との連携はここ長らくやってらっしゃると思うんですけど、また同じようにやればいいのかということではないということだと思いますけど、その辺りせっかく話題が出ましたので、野田委員から何かございますか。

(野田委員)

学校との連携は、一般的に小学校6年生の歴史の授業をやる中で最初に稲作をやりますので、その関係で中部地区の小学校はだいたい稲作の勉強をしてその確認ということで、登呂遺跡に来て、中で稲作の様子を見学し土器とかを見て、そして外で水田の跡、それから竪穴住居、高床倉庫等を実際に目で見て確認するというのが一般的な社会科見学のパターンです。これはこれで一般的なパターンとしてあっていいと思うし、そのパターンは、例えば藤枝や沼津の小学生がここに来てそういったところで一つ勉強をして思い出として残る。これは定番のパターンとしてありだと思います。先ほど隣の委員にも話をしたんですけども、この前、南部小学校に館長さん含め来ていただいて相談させていただいたんですけども、話のきっかけは私の学校の教頭が今年赴任して、社会科中心の教員でずっと藤枝のほうの学校だったんですね。ここに教頭として初めて赴任して、志太地区の小学校の教員

の立場からすると、わざわざバスを借り切ってほぼほぼ1日潰してここは見学に来る場所である。そんな場所が学区の中にあるのはすごいことなんですと言われて、ああ、なるほどなど、そこで初めて気が付きました。ただ、そんな素晴らしい場所を子ども自身が自覚しているかということ、僕は自覚していないと思います。意識の高い大人でこの辺に住んでいる方はここが素晴らしい場所だと自覚していると思いますが、子どもにとってはいつもある場所です。すごく遊べる公園でもない、この中で自転車を乗り回すことは無理ですし、野球やサッカーをやるとかもないし、なんとなくある広い広場、空き地。社会科見学で登呂博物館には入ったことはあるけど、それ以外ではたぶん入ったことはない。というような場所で、実は一番身近な子どもたちが一番理解をしていないんじゃないかなと自分は思っているんです。この辺に住んでいる子どもたちにはすごく誇りを持ってもらいたいし、私は清水区の人間だけど、清水区の人間としては、登呂遺跡はたぶん沼津の人が考えている登呂遺跡と大して変わらない。なので、見学はそれで残しながらも、やはりこの地域の子どもの掘り起こしが僕はすごく重要じゃないかなと思って、1月に来ていただいて、来年度、5年生と6年生に博物館とタイアップした形の授業をやっていこうかなと思っています。先ほど商品開発というお話があったのですが、その中のいくつかを見せていただいて、これはそのままやればいいよなどというのがありました。基本的には体験。僕としては矢尻に触らせてよというようなことを確か言ったと思うんですけども、僕はそれにすごく興味があるんですけど、とにかく実物に触れられる。それから、弓矢を射るとかいったこともできる。それから、一番よくあるのは火おこしが定番ですごく喜ぶんだけど、とにかく体験、見るだけではなく体験をいっぱいできるような何かをできないかなという話をしました。うちの学校は歩いて10分で来られますので、ほぼほぼ午前中全部潰しても全然かまわないですよという話をして、今、年度末でどたばたしているものですからそこまで手が回らないんだけど、そういったのを来年度やろうと思っています。そういうことをすることによって、とりあえず、うちの学校がパイロット的な形でやって、そうするとたぶんお隣の富士見小学校とか、隣の宮竹や中田小とか近隣の学校にそういうプランが勧められると思うんですよね。そうすると、子どもたちが意外と登呂遺跡ってすごく大切なところなんだねというところが、恐らくわからないけど、それが10年後、20年後のボランティアに繋がっていくのかなという思いを僕は持っています。それから、そこで面白かったよこの体験というふうになれば、例えば、志太とか沼津から来た学校がただ見学だったのがその体験を入れる見学プランに変わってくる。もしかすると、それが商品化されて旅行会社等で売っていただくこともできるかもしれない。その一歩になればいいかなと来年は思っています。個人的なことを言うと、例えば、SPACが毎年やっているのが、ただで演劇を見せてくれてバス代も出してくれるのをやってくれているんですよ。たぶん学校現場としては一番困るのは移動費。うちの学校はここだったら全然問題ないんだけど、その辺で若干補助が出るとか、何校限定で招待しますよ、交通費出しますよということをやっていたら、結構食いついてくる学校は多いんじゃないかなと思っています。

(田宮委員)

補足ですが、今、野田委員がおっしゃったように、実はミュージアムがすごく良い活動をしていると修学旅行で来るところが増えてくるんですよね。私が提携している北九州の環境ミュージアムには、それこそ静岡県磐田南高校の修学旅行のコースになっているので、そういう観光の捉え方も実はできるので、時間はかかりますけど、非常に良い取り組みになっていくんじゃないかなと思います。

(堀切会長)

学校関係ということで薬科委員もお願いします。

(藁科委員)

この話を聞いてこのペーパーをもらったときに思い出したのは、先日、区の校長会をやったときに歴史博物館の方が来て、こんな 10 時間くらいのプランを総合的な学習の時間で組んでいますので、ほかの学校もどうですかというような話でした。そのきっかけになったのは、ある市内の校長先生が歴史博物館の方に 10 時間くらいで何か相応のメニューがないかなということで提案したらそれで作って下さって、清水の依頼した学校が、総合的な学習が年間 70 時間くらい 2, 3 年生だったらあるんですけど、その中の 10 時間分をずっとそれだけをやるわけではなく、その中の一つのメニューとして提案してくれると。別に無理にここで開発しなくても歴史博物館と連携しながらやることもできるかなと思います。正直言って、中学校の総合的な学習の時間は、静岡市において全ての学校ではなくて、多くの学校では 1 年生は 2 年生で行う職場体験に向けて、職業について考えようということやっていく。そして、2 年生は職場体験に関してのまとめと、次は修学旅行に向けて取り組んでいく内容が中心になって、その他の色々なこともあるんですけど、その二つの職場体験と修学旅行に向けて色々なことをやっていこうという中でやっているところがほとんどです。その中でなかなかこれから学校教育の中で教科横断的に、教科関係なしで探究的な学習を進めていこうということまで行っていないような学校も正直あるのが現状です。そういった中で、この市の歴史的な博物館 2 館が連携して中学校にこういったことが提供できますよ、もちろんこの登呂博物館のことじゃなくても、見たら夏の時期はタイムトラベルということで色々な静岡市の歴史的な所もご紹介していただけたらというのがあるものですから、例えば、うちの地区だったら、先ほど言った神明宮や色々なところの歴史の資料を少し提供してもらいながら、色々な地域に関しての学習を深めていこう、地域の歴史を知っていこう、静岡市の歴史を知っていこう、それを知ることによって次はもっと歴史的な史跡がいっぱい詰まった修学旅行にこういうふうに繋げていけるよ、というような話になっていけば、探究的な様々な社会科だけではなくて、先ほど言った食に関して家庭課であるとか、科学的なこともやれば実験的なところも入ってくれば理科もとか、色々なことが入ってくるかなと思うものですから、またそこは先ほど忙しくなり過ぎちゃうというのがあるものですから、二つの館が連携しながらそういったものを中学校に提供してもらおう。先ほども小学校 6 年生が一番人数が多くて、中学生の来館者数はたぶんはつきりいって無いんじゃないかなというところがあるんですけどね。やはりそこを学びを繋げていくことをやっていくことで、その中で少し登呂博物館の様々なメニューを入れていくことで、じゃあ中学校や高校は静岡市内を巡って、登呂博物館や色々なところを中心に市内を巡っていく行事をやってみようということにも繋がってくるかなと思うものですから、そういったメニューを実際に歴史博物館のほうでは作成して色々なところで、という話も出ているものですから、またその辺りを連携してやっていただけるとありがたいなと思います。よろしくお願いします。

(堀切会長)

学校連携については何かほかにございますか。

(藤田委員)

うちの息子が宮竹小で来年度 6 年生になります。ここにも来るかと思うんですけども、息子とかもよく登呂遺跡には来ていて思うんですけども、体験を本当にただ面白いと思って遊んでいるということと、あとはゲームを見ているかの如く、弥生時代というのを自分事としては見ていない。なので、本当に興味関心があるものとして残っていない。歴史の区切り方も悪いと思うんですけど、弥生時代、縄文時代みたいに、そういうのも悪いと思うんですけど、そのワンシーンとしてだけしか見

ていないので、それが自分たちに繋がっているというところに到っていないというふうに思います。学校という観点だったら、今、これからお話するのは地域の子どもたちにとってですけれども、この土地でずっと弥生時代から暮らしが営まれてきたことはすごいことだと思うんですね。途中洪水とかで村がなくなったという話も聞いてはいますけど、今もまだ土地が空くと家が建っている結構人気の土地なんですね。弥生時代から繋がる新興住宅地という仮説というかキャッチコピーを考えて、すごいなと自分でも思っているんですけど、そういう中で弥生時代にある種田んぼができたことで、組織だった地域の組織ができたといったところを、もし本当にあったのだとしたら、それが今も続いていて今の社会とどう関わり合っているのかというところは、すごく自分事として大きな気付きになることかなという素晴らしいコンテンツになるかなと一つ思っています。その場所で僕たちはどう暮らそうというような、今の暮らしを考えるような起点にもなると思うので、弥生時代に争いはあまりなかったかもしれないですけども、ただ権力争いとかはもしかしたらあったかもしれないで、それが政治とどう結びついてとか、色々な方法があると思うので、そういうところも繋げていったらこの地域がこれからどうなっていくかという展望にも繋がると思うし、そんなに長い歴史があるんだ、このエリアにと思えるような、そういうきっかけになっていくのは面白いなと思っています。あとは、少し離れた地域から登呂遺跡に来る人たち、小学生とか学生の人たちにどういうふうに残っていくかというのもとても重要で、そこは色々な方法、さっきの何か物を作るとか、体験とかそういったところで築いてはいけると思うので、まだなんのアイデアもないですけども、少しデザインを入れることで何か面白い物をお土産として持たせることができたり、そういったことも考えていくのは一つの手かなと思っています。本当に少しのことだけで、ずいぶん違ってくると思うんですよ。そのものを作ることが重要ではなくて、貫頭衣をこの間登呂まつりで見たんですけど、各地区のお母さんたちが手で縫っているんですけど。少しずつデザインや長さが違って、あそこのものが格好いいなというのを色々見ていた中で、オリジナリティのある発掘されたものもいいんじゃないかなというのは、博物館の意図とは違うかもしれないですけども、その子の思い出に残るといえるか、登呂遺跡との結びつきを作るためのきっかけとして、そういうグッズみたいなのはある種ありかなと思いました。

(池田委員)

学校との連携について一つ参考にしていただければと思うのは、私は、清沢地区の集落支援員という肩書を持っておりまして、清沢小学校は 151 年の歴史を持って今年度で閉校ということでやっているのですが、その中で子どもたちに清沢レモンについて毎年学習をしてもらっていて、先生たちがすごくよくやってくさっていて、そのポイントとしてあるのは、子どもたちがこっちのサイドにいるんですよ。受ける側ではなくて自分たちが主体的に考えるサイドで、清沢レモンをどう世の中に広げていくかということをしごく主体的にやってくれていて、結果、商品を県外に持って行って販売したり、3、4年生でももっと売れるようにいいラベルを作ろうとあって、ちゃんとラベルを作って販売してくれたりして、その結果、販売先が山梨県に一個増えたということがあったりするんですね。なので、先ほどもおっしゃっていたように、商品開発は一つのフックとしてとても有効だと思うので、ぜひそれを1年度で終わらせず、次も何年も続けていくと歌ができたり、何ができたりと広がっていくので、ぜひその辺りもやっていただけたらなと思います。

(堀切会長)

学校はやはり大変ですよ。まず時間がないし、お金もないし。バスのチャーター代の話も出ましたけれども、学校は本当にきゅうきゅうの中で、それでも少しでも子どもたちにとって学びの機会を

提供したいということで、学校の現場の方たちは本当にいつもご努力いただいていると思うんですけども、ですから、これは私個人の考えですけど、学校にこれ以上期待しちゃだめだと思っています。となると、池田委員や田宮委員の発言のように、やはり学校と市民、学校と子どもたち、学校と地域を繋いであげるような存在、役割をしてくれる方や団体がやはり非常に重要になるのかなと思っています。学校で言えば部活動で地域の方が入っていくこともありますけれども、学校と地域を繋ぐ役割を果たしてくれる人がやはりこれから大事になってくるのかなと思ったりしています。話を元に戻すと、学校団体はもちろん大事ですけども、それ以外の団体との連携をどう探っていくのか、深めていくのかということも一つ大事なのかなと思います。ただ、先ほど意見があったように何でもかんでもいいだろうということではなく、相当マッチングが大事だろうということですね。マッチングに関しては、簡単に言えばコンサルみたいなのを雇って紹介してもらいたいこともできるとは思うんですけども、そういうのはちょっとですので、やはりちゃんと信頼できる人づてに探っていくのがスピード感はないかもしれないですけど、一番着実なのかなということも多いですね。もう一つはやはり行政ですね。市の中には色々な情報が集まっているわけですので、静岡市内の中の色々なセクションと連絡を取り合って色々な情報を提供してもらい形も重要なかなと思ったりもします。

(藤田委員)

私は、登呂遺跡に週末家族が来る、地域の人が来るというのを作りたいと思って、実は公園・緑地政策と連携をして、旦那さんが飲食店をやっていますので、登呂遺跡で週末におむすびやさんをさせてもらったということがありました。やはり一店舗だけで私たちの営業力では広告がなかなか難しく、自分たちの自己満足の中ではできるけれども、そうじゃない本当に地域の人に知ってもらうためのイベントって、池田委員が言っている、はびまのような大きなものは到底無理ですけども、そういったのはどうやっていったらいいのかなとすごく悩んだ一年でした。でも、そのことを話していくと、結構周りに「登呂遺跡良いよね、何かできたら良いね。」という方がちょいちょい声を掛けてくれるように今なっていて、例えば、シャボン玉のアーティストさんや、「遺跡とシャボン玉なんて最高」とか「夕焼けのシャボン玉めっちゃきれいだよ、そのときにやりたいね」とか、今年ではできなかったんですけど。あとは、キャンプをやりたいといっている方が出てきていて、本当に具体的にキャンプ屋さん、キャンプ用品を売っている方とか、飲食店をやっている方とか、本当にその方たちがそこでできたらそれは素晴らしいよねということで、チャレンジだし自分たちにとってもすごくやりたいことであると言ってくれている人ってやはり強いと思うので、そういったところに例えば申請の仕方とか、どういうふうに参加費を取っていったらいいか、どういった運営をしていけばいいのかというノウハウがその方々にはないので、その部分はコンサルティングじゃないですけど、アドバイスしていきながら実現していくというのを、本当に館と我々とか色々な人でサポートしていくことで、一個一個やっていくことで繋がっていくんじゃないかなと思っていますので、成功するかどうかはもしかしたら分からないくらいの小さなまだ団体にもなっていない人であるけれども、いなくはないので、そういう活動をサポートしていけるような仕組みを作っていけたらなと思っています。

(堀切会長)

やはり人と人を繋ぐ大切さが発言の中から窺えたような気がするんですけども、静岡市文化振興財団から、生涯学習センターとか色々な活動をされていて、市民との関わりはたぶん行政以上に経験がおありだと思いますけど、何かございますか。

(前田委員)

先生のご発言にお答えする前に、私の前段を踏まえた考えですけれども、私は、保存と活用は概念的には両立していくのが、その通りなんですけれども、適切な保存計画とか、保存の概念という骨太のものがあって、その線上に活用を位置付けることが原理原則として大事なんじゃないかなと感じております。

それと、博物館ボランティアがすでに50人を超えるというのは、この博物館のすごく財産だと思うんですよ。その方たちをどういうふうにブラッシュアップしていくかは、やはり一緒になって展示の手法を考えたりすることでも十分自主性が育まれるし、そこで私は十分じゃないかなと思っているんですね。どこに期待しているのかは未知数かもしれないけれども。それともう一つ、学校の連携のところで藤田さんがおっしゃったけれども、歴史の連続性を博物館で感じるのは非常に大事だと思っています。レンジも広がるし。例えば、体験施設の中で船の体験があったじゃないですか。あそこに小さいゴムボートを浮かす。そうすると現代と弥生との時間軸が目で見えるんですよ。それとか、同じ火おこしをやるにしても、マッチやライターでまず火を付けてみる、今こうだよ。そして昔はどうだったのかを振り返ってみる。そういうインタープリテーションの技術ですよ。それをボランティアがブラッシュアップしていく。というのは十分私は自主性に繋がるんじゃないかなと聞きながら思いました。それと、人材育成とかに関わることだと思いますけれども、生涯学習センターでも講座を通して意気投合した人たちが連絡して集まって、徐々にグループになって講師を務めるまでに成長した例があります。それはやはり最初の講座の受講から数えると7年とか8年かかります。私たちが、「じゃあ、皆さんグループとか作って見たらどうですか。」と声を掛けて、お部屋代を出して、そしてこういう講座をやってみませんかとか青写真を描いて、そしてやっとなんとかと語弊があるんだけど、最終的にグループの皆さんが交代で講師を務めるところまで成長する。博物館のマンパワーがなかなか難しいんですよというところから出発したこの話ですよ。誰か手伝ってくれる、サポートしてくれる人が欲しいですよというロジックであれば、逆に人材育成をするときにとってもマンパワーが要ります、経験上。その加減をどうするか。だから私は手の届く範囲ということであれば、今いる財産のボランティアの人たちの技術を向上させる、自主性ということまで昇華させずというところがあります。それと、私これを読んでいて、歴史的価値や魅力とあるんですけど、価値と魅力はどう違うのかなと単純に思うのと、価値だけで良いじゃんと思うのと、やはりシンプルな言葉のほうが伝わると思うのでそう思いました。

(堀切会長)

ボランティアは非常に有難いんですけれども、ボランティアが来てくれたから仕事が楽になるということではなくて、ボランティアとのお付き合いという仕事が増えるということなんですけれども。話の流れでボランティア活動のことについても議論ができればと思うんですけれども、先ほどの事務局の説明から、今までは曜日ごとのグループに分かれていて、という話だったところから、それだけではなくて活動内容ごとのグループを作って、それによってより自発的な、主体的なボランティア活動を展開したいというご計画の説明がありました。非常にいいことなんじゃないかなと思います。私が昔、務めていた県立美術館も実は同じ経緯を辿りまして、県美は300人くらいボランティアがいるんですよ。昔はその300人が全員同じ仕事をする形で、そうすると色々弊害が出てきて、今から13年前くらいかな。私が当時ボランティア担当だったんですけれども、それを止めようということになりまして、活動内容ごとのグループに変えたんです。その改革がうまくいったかは議論の余地がまたあるんですけれども、そうすることによって自分たちでこういうことをやりたいとか、みんなが同じことをやっているだけだと館から与えられたことをルーティン的にこなしていくに過ぎないで

すけれども、活動的内容ごとにしちゃうとその中で自分たちでもっとこういうことをしたいとか、こういうことをやるんだったらこういう工夫をしたいとか、美術館が気が付いてないけれども、自分たちはここが問題だから、ここについて取り組みたいとか、自主的な気風が生まれたのはよかったんじゃないかなと思います。それは一つの例ですけれども、ボランティア活動等についてご意見がもしありましたら皆さんからお伺いしたい。市民の立場からボランティア活動や市民の参画の方法など、何かお気づきのことがありましたらお話いただければと思います。

(鈴木委員)

私は一昨年、赤米を収穫するハッピートロウインのときに収穫祭をさせてもらって、そのときに友達が舞台に来てくれたり、色々な形で関わってくれる友達が今増えていて、昨年の収穫のときにその歌い手さんが連れてきた友達が中国人の3人でその子たちは今、東京で製菓、パンを専門に学んでいる子たちを連れてきてくれて、彼女たちが収穫をしてお米を私が届けに行き、その2週間後くらいに、「米粉にしてパンを作りました。」と言ってくれたり、「昨日、もち米はちまきにして学校で作って食べたよ。」という話をくれたりして、その学校との関わりというところで小学校、中学校だけではなくて製菓の学校とか、ほかの今まで関わりがなかった年齢層の方たちも巻き込むほうが逆に自主性というところかというと、20代の人たちの方が自主性をもってそういうところに関わってくれるんじゃないかと思いましたし、たぶん中国の3人は中国に帰ってもまた来たいと言っていたので、もう今年の3月で帰ってしまうのですが、また機会があれば中国からきたときに友達や家族と一緒に来たいと言ってくれていたんで、コンスタントには関われないですけども、そういうファンの人たちを作っていくのも人材育成というところでは今後大事になってくるんじゃないかなと思いました。

(堀切会長)

やはり館がしてほしいことをやっていただくのも非常に大事なことですけれども、自主的に何かやっていただけるといふ、この資料にも書いてありますけれども、自発的に、そういう人材とか団体がこれから増えたり育って連携できたりするといふんじゃないかなと思います。

木山委員、全体を総括していただけるとありがたいです。よろしく申し上げます。

(木山委員)

博物館の学びはやはり自由な学びということになっていて、色々な人が色々な目的で来ることになるんですね。どういうことを知ってほしいというのは、もちろんこっちはあるわけですけど、必ずしもそこまで到達しなくてもいいよというのが社会教育、あるいは自由な学びということになります。ここでリピーターが3割とかになっているんですけど、僕としては体感的には非常に高い感じに思いました。この人たち、なかなか博物館は実際に誰かがいて解説してくれるということではない。ボランティアがやってくれますけど、基本的にはこういうものを見て、自分で感じて去っていくことになるので、正しいことが伝わっていくのか、こっちは伝えたいことが伝わってくるのかということ、何度も来てもらって見てもらう、関わってもらう、体験する、そうしていく必要があるということで皆様方、色々な世代の人がいるので、はびままだったり、ハロウィーン、登呂まつりなど、色々なものにリーチするようなイベントを組んでいる。特別展もそうですね。あとアカデミックなところもそうだと思いますが、そういうのを組んでいるということです。それがある程度成功して恐らくリピーター3割になっているのだと思います。これはすごく大事にしないではいけなくて、先ほど会長がおっしゃったように、ボランティアが53名いるのは非常に大きな価値を持っていると思うんですね。

この人たちはもうすでに自主的に参加しているわけです。そこで考えなくてはいけないのは、もうすでに出ていますが、事務局も自覚的だと思いますが、現在の活動は補助が多いと。自分たちをお手伝いしてくれる人の位置づけになってしまっているのはとてももったいないと思います。ですので、自覚的だとは思いますが、ボランティアの人たちに自主的にさらにイベントをやっていただくことをどんどん推進していただければなと思っております。やり方も色々あると思うんですけども、そこが一番大事かなと思います。というのも、ボランティアの人は結局ここに関わりますよというときには何か目的があるわけですね。学びたいとか、あるいはここが好きだからもっと伝えたいとか、そういう意識のある者をただのお手伝いさん、そんなふうにはしていないと思いますけれども、お手伝いさんで終わってしまうと非常にもったいない。この人たちをもっと大事にしていくと、新しい事業を募集しますよ、というのも大事だけれども、この人たちが考えていることや実現したいことをサポートすることが、一個新しい事業を募集するものとはほぼ等価値になると思いますので、ボランティアの活動のほうがまだステップがしやすいと思うので、そこを頑張っていただけたらと思います。新しい事業の募集を先ほど藤田委員がおっしゃっていました。例えば、キャンプがしたいとか、というのはほかの遺跡でもうやっちゃっていますよね、なので、登呂遺跡でもおそらく実現可能だと思いますので、結婚式とかもやっていたりしますから。そういうのは色々なことができると思いますので、ただ、保存の骨太な方針と活用の方針は示す必要がある。例えば、ホームページ上でよろずこんなイベント相談窓口みたいなのを作ってみて、それでこれは無理ですよねというのはもちろんいいですけども、フリーマーケット開きたいんですけど、こういう空間をあれてとか自由な発想で提案していただければ、その都度その都度検討いたしますというので新しい事業を募集することもできるかなと。まったくこれまで関わりなかった人、あるいはちょっとこのイベントに参加してみたけど、例えば飲食やっている人が私たちもこんなイベントやってみたいという発想があるんだったら、そういうのもいくらでもどうぞというような窓口を作ってみるとかいかがでしょうかと思いました。あと、外国の方が結構いますよということだったので、この方々が何をもちょうこにきたのか、それは知っておいたほうがいいと思います。というのも、私も旅行に行ったときになんでこんなところに外国の人たちがいっぱいご飯食べているのみたいなのは、恐らく彼らが見るネット情報などで入ってくる。そういうふうなのに入り込めるようなリーチの仕方があるのかなと思ったりもしました。

(堀切会長)

良いご提案をたくさんいただいたと思います。外国語関係だと音声ガイド四か国語揃えたのは素晴らしいことだと思います。あとボランティアといえば、ボランティアは実は本当に人材の宝庫。普通のおじちゃんおばちゃんだと思って話をしていると、よく聞いてみるととんでもない経歴のある人とか、とんでもない特技のある人が実はごろごろいらっしゃるのがボランティアだったりもします。

では、皆様からいただいたご意見については、今後の博物館運営に活かさせていただきますようお願いしたいと思います。これで議事を終了させていただきます。司会進行を事務局にお返しいたします。

<閉会>